

## ●グローバル化時代の医療・検査事情 30

世界の医学部を巡って(7)  
I ヨーロッパ編 チェコ共和国

な ら のぶ お  
奈 良 信 雄  
Nobuo NARA

チェコ共和国（以下はチェコと略）は、ドイツ、ポーランド、オーストリア、スロバキアに囲まれた約 7 万 9 千 Km<sup>2</sup> の国で、国土面積は日本の 5 分の 1 ほど。人口は約 1,069 万人で、首都のプラハには約 131 万人が暮らしている（2019 年 12 月末現在<sup>1)</sup>）。

10 世紀にはボヘミア王国が作られ、17 世紀からはハプスブルク家の支配を受けた。1918 年には独立したが、その後ナチス・ドイツに侵略され、1945 年にチェコスロバキアとして再び独立した。その後、旧ソ連の干渉を受けて社会主義国家となった。1968 年には解放を目指して「プラハの春」を迎えたものの、旧ソ連軍戦車による軍事介入を受け、共産党独裁が続いた。

ようやく 1989 年のベルリンの壁崩壊に伴って民主化運動が進み、1993 年にチェコスロバキアがチェコとスロバキアに分かれ、北大西洋条約機構 (NATO)、さらに欧州連合 (EU) に参加して現在に至る。チェコ人が約 69% で、その他にスロバキア人、ウクライナ人、ベトナム人等が暮らす多民族国家である。陸続きの国は、島国には想像だにできない、弱肉強食の歴史があるようだ。

ブルキンエ（後述）などを生んだ歴史ある東欧の医学教育はどうなっているのか？ハンガリーに続いて、興味津々で視察調査することになった。

## I. チェコの医療制度

チェコの病院数は 256 である<sup>2)</sup>。人口 1000 人あたりのベッド数は約 6.62 で、日本の 12.98 に比べて

ほぼ半分である（2019 年）。これは、病院医療を中心にする日本と、外来診療中心のヨーロッパ医療の差によるものかもしれない。医師数は 42,919 人、このうち女性医師が 24,170 人と半分以上で、65 歳以上の医師が 46.92% を占める。

医療制度は、公的または民間の健康保険加入が義務づけられ、国民は保険料として所得額の約 4.5% を支払っている<sup>3)</sup>。医療費や薬剤費の全額が基本的には健康保険から支払われる。もっとも、最低限レベルの医療に限られ、かつ緊急時以外には予約がないと診療を受けられないなどの課題が指摘される。より高度な治療を受けたい場合には、当人が差額を支払わなければならない。

通常的一般医療は、多くのヨーロッパ各国と同様に、予め契約している General Practitioner (GP) と呼ばれる家庭医が担当する。その上で専門医の診療が必要と判断されれば、GP が契約している専門医へ紹介される。さらに、入院が必要な場合には、GP が病院の施設を借りて診療を行うか、専門医が診療を行う。

## II. チェコ教育制度

チェコでは、東ヨーロッパにはほぼ共通した教育システムになっている<sup>4,5)</sup>。学年歴は多くの欧米諸国と同様に、9 月から翌年 6 月までである。

義務教育前の教育は、3～5 歳児を対象にして、主に保育園で行われる。5 歳児からは就園が義務化されており、義務教育期間は 5 歳から 15 歳までの 10 年間である。6 歳からは、基礎学校で初中一貫制

の初等・前期中等教育を9年間受ける。

基礎学校は、第1～5学年の第1段階と、第6～9学年の第2段階から構成されている。第2段階の第6～9学年は、8年制のギムナジウム（中高一貫校）や芸術学校で教育が行われる制度もある。また、第8～9学年は6年制のギムナジウムで行われることもある（図1）。

後期中等教育は、ギムナジウム、中等技術学校、中等職業学校、職業学校、専門学校、実践学校などの後期中等教育学校や、音楽、演劇、舞踏を学ぶ芸術学校で行われる。普通教育は主にギムナジウムで行われるが、職業教育に重点をおく中等技術学校や中等職業学校、さらに芸術学校から高等教育に進学することも可能である。

高等教育は、1999年からリスボン条約に基づいたボローニャプロセスに沿い、各学校の修了試験を合格した者を対象にして、総合大学、大学以外の高等教育機関、高等専門学校等で行われる<sup>6)</sup>。

総合大学では、3～4年で学士、1～3年で修士、3～4年で博士の学位が取得できる。履修単位はEUに共通した欧州単位互換制度 (European Credit Transfer System: ECTS) 単位に換算が可能で、1セメスター 30ECTS 単位、1年間で 60ECTS 単位の取得が標準になっている。欧州高等教育圏資格枠組み (Qualifications Frameworks in the European Higher Education Area: QF-EHEA) では、学士課程 (3～4年：180～240ECTS 単位)、修士課程 (1～2年：60～120ECTS 単位)、博士課程 (年限、ECTS 単位

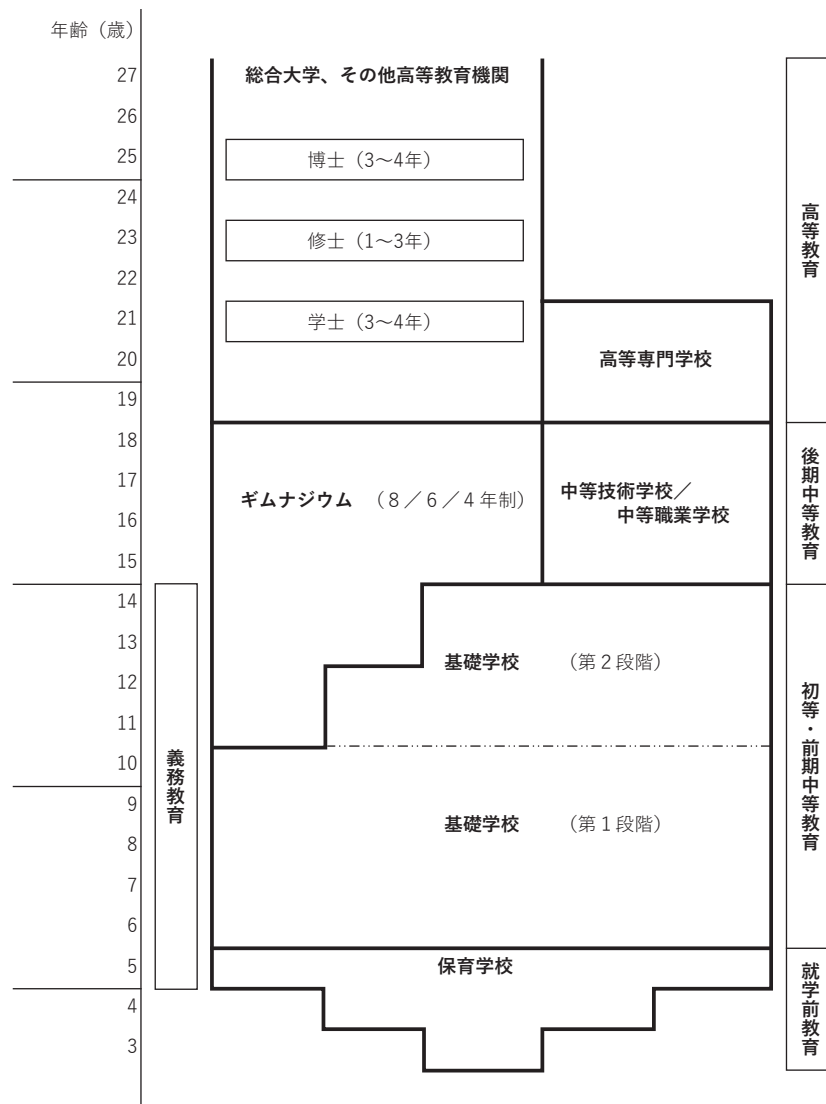


図1 チェコの教育体系（芸術学校などを除いている）

の定めなし)とされる<sup>7)</sup>。高等教育の就学率は男子約53%、女子約75%、全体で約64%になっている。

### Ⅲ. チェコの医学教育

医学部教育は、学士・修士が統合された6年間の課程である。卒業すると、MUDr. (Doctor of General Medicine) の学位が付与される。

国家試験は公衆衛生学、小児科学、産婦人科学、内科学、外科学の5科目について、State Doctorate Examinationsとして第11～12セメスターの期間に実施される。国家試験に合格すれば、チェコの医師免許を取得できる。チェコはEUに所属しているため、EU加盟国のどの国でも医師として勤務ができる。

チェコには2020年12月現在、9医学校が設立されており、うち3校はプラハにあるUniverzity Karlovy (カレル大学)の医学部である(表1<sup>8)</sup>)。

### Ⅳ. 医学部訪問

#### ①カレル大学第1医学部

カレル大学は、1348年に神聖ローマ皇帝カール4世によって創立された総合大学で、ヨーロッパで最も古い歴史を誇る大学の一つである。神学部、法学部、芸術哲学部、教育学部、社会科学部、人文学部、医学部、薬学部、理学部、体育スポーツ学部などがあり、大学院生などを含めると、およそ4万9千人の学生が学んでいる<sup>9)</sup>。

医学部では、プルキンエ細胞やプルキンエ線維を発見したヤン・エヴァンゲリスタ・プルキンエ(1787～1869年)など、著明な科学者を輩出している。

表1 チェコの医学校 (<https://search.wdons.org/>)

| 医学校名                                                 | 所在都市           |
|------------------------------------------------------|----------------|
| 1. Lékařská Fakulta, Univerzity Karlovy              | Praha          |
| 2. Lékařská Fakulta, Univerzity Karlovy              | Praha          |
| 3. Lékařská Fakulta, Univerzity Karlovy              | Praha          |
| Fakulta Vojenského Zdravotnictví, Univerzity Obrany  | Hradec Kralove |
| Lékařská Fakulta UK v Hradci Králové                 | Hradec Kralove |
| Lékařská Fakulta v Plzni, Univerzita Karlova v Praze | Plzen          |
| Masarykova Univerzita Lékařská Fakulta               | Brno           |
| Ostravská Univerzita v Ostravě Lékařská Fakulta      | Ostrava        |
| Univerzity Palackého v Olomouci Lékařská Fakulta     | Olomouc        |

医学部には、チェコ人向けのチェコ語によるプログラムと、国外からの留学生向けの英語のプログラムがあり、後者には世界約50か国から毎年150～200名の留学生が入学している。

歴史ある大学だけに、施設は格調高いが、その分、老朽化している点が学生にとっては不便かも知れない(写真1, 2)。臨床実習施設もプラハ市内に点在しており、教育病院としては、1,500床のカレル大学附属総合病院、1,400床のフラデツ・クラーク・ヴェー病院などがある。

解剖学博物館には立派な所蔵品が納められ、京都大学解剖学講座初代教授足立文太郎博士の「Arteriensystem der Japaner (日本人の動脈系)」を始め、医学的に貴重な書物が数多く保存されている(写真3, 4)。緑のきれいな広いキャンパスには、プルキンエの像が鎮座して学生達を見守っている(写真5)。

医学部は6年制で、カリキュラム構成を表2に示す<sup>10)</sup>。解剖学、生理学、生化学などの基礎医学教育が2年以上かけて行われたあと、臨床医学教育、臨床実習に進む内容となっており、旧来の日本の医



写真1 カレル大学



写真2 カレル大学



学部教育に類似している。ただし、日本と異なる点として、2年次に夏期研修として3週間の看護研修があるのは特色であろう。

学生に対する教授陣の割合は3:1と教職員は充実しており、従来の講義形式に加えて、セミナー形

式での小人数教育を積極的に導入して、学生の学修意欲を高める工夫が凝らされている(写真6)。研究マインドの涵養にも注力しており、学生は卒業後にも研究を行って博士号(PhD)を取得する体制になっている。



写真3 カレル大学解剖学博物館



写真5 プルキンエ像(カレル大学構内)

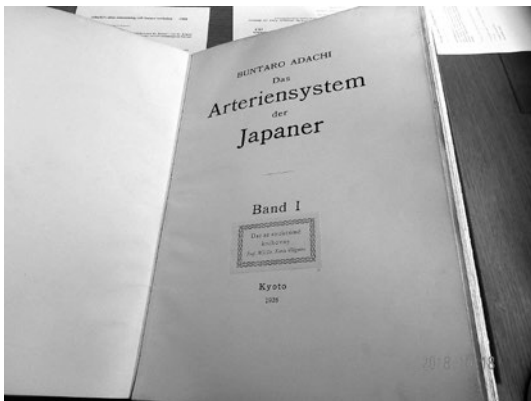


写真4 カレル大学解剖学博物館に所蔵されている足立文太郎博士の著書



写真6 カレル大学セミナー室

表2 カレル大学医学部カリキュラム

| 学年 | 主な教育内容                                                                                                                                        |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1年 | 解剖学、組織学、発生学、生物物理学、生物学、遺伝学、救急(実習)、医学用語基礎、医学情報学                                                                                                 |
| 2年 | 生物学、遺伝学、微生物学、生理学、免疫学基礎、生化学、看護学<br>夏期研修:看護研修(3週間)                                                                                              |
| 3年 | 薬理学、分子病態学(遺伝的代謝障害、分子腫瘍学)、微生物学、生命倫理学、病態生理学、内科学基本、外科学基本、医療心理学、精神療法学、病理学                                                                         |
| 4年 | 免疫学、薬理学、衛生学と伝染病学(実習)、法医学、生命倫理学、放射線学、内科(老人医療)、感染症学、皮膚科、外科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科学、医療心理学、臨床遺伝学、精神療法学、職業病と毒物学、核医学、プライマリケア、臨床局所解剖学、口腔外科、<br>夏期研修:外科実習(2週間) |
| 5年 | 循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ膠原病内科、神経内科、腫瘍科、脳神経外科、産婦人科、精神科、リハビリテーション科<br>夏期研修:内科実習(2週間)・産婦人科実習(2週間)                               |
| 6年 | 内科(実習)、外科(実習)、小児科(実習)、産婦人科(実習)、麻酔と救急医療、プライマリケア、泌尿器科、公衆衛生・医療法(実習)、臨床生化学、実践的医療技術                                                                |



写真7 カレル大学シミュレーション教育  
(生理学実習)

シミュレーション教育も活発で、生理学、病態生理学、臨床医学などへと段階を追って実践的に実施されている。わが国では臨床技能を修得する目的でシミュレーション教育が活用されることが多いが、カレル大学では呼吸・循環生理の実習にシミュレーション教育が活用され、学生の理解度も満足度も高い(写真7)。臨床実習は診療参加型臨床実習を導入し、静脈確保などの医療手技も患者の同意を得た上で実施されている。なお、学生の医行為に対する患者の同意は80%ほどで、同意が得られない患者には学生が医行為を実施しない。

## ②マサリク大学

Masarykova Univerzita (マサリク大学) は、1919年にチェコ第2の都市であるブルノに設立された。マサリクという名称は、チェコスロバキアの初代大統領T.G マサリクに因む。

医学部、法学部、理学部、美術学部、教育学部、経済学部、情報処理学部、社会科学部、スポーツ科学部の9学部におよそ4万5千人の学生が学んでいる<sup>11)</sup>。カレル大学に比べ、建物も新しく、斬新なデザインの図書館では学生が生き活きと勉学に励んでいる(写真8～10)。

マサリク大学医学部は、約4,500名の学生のうち約900名が国外からの留学生で、国際化が強調されている。出身国は、隣国のドイツやポルトガルなどのヨーロッパが多く、次いでイスラエル、サウジアラビア、インド、日本からとなっている。

マサリク大学医学部も6年制で、カリキュラムはカレル大学とほぼ同じく、入学直後から基礎医学の授業が始まる。解剖学の試験は難易度が高く、学生は恐々としていた。3年次から臨床実習が始まり、



写真8 マサリク大学医学部



写真9 マサリク大学医学部附属病院



写真10 マサリク大学医学部図書館

4～6年生では臨床医学教育が行われる。6年生では国内外の病院で臨床実習が行われる。

教育方式では、講義に加え、15名程度のグループで課題に対して学生同士が討論するセミナー、実習がある。とくにセミナーと実習が重視され、講義は基盤となる知識や考え方を得るためのものと位置付けられている。



写真 11 マサリク大学医学部卒業式

視察したときには、卒業式のセレモニーが開催されていた。伝統的な衣装にヨーロッパの格式を垣間見た(写真 11)。

## V. チェコ旅行記

チェコを最初に訪れたのは 1980 年。当時はチェコスロバキアと呼ばれた時代で、東西冷戦の真っ只中だった。

当時、日本からヨーロッパに行くには、アラスカのアンカレッジに立ち寄り、給油をしてからヨーロッパ諸国に向かうのが常道だった。大国ソ連の国土を民間航空機が飛ぶことなど罷り成らず、わざわざ遠回りする非効率ルートだった。アンカレッジでは旅行客を相手に土産物店が繁盛し、コーヒーを飲みながら背伸びをし、しばしの休憩をとったものだ。

もっとも、裏技は何にでもある。社会主義国家のチェコスロバキアに行くには、旧ソ連国営のアエロフロート航空で成田からモスクワに行き、そこで航空機を乗り換えてプラハに行く最短ルートがあった。国営だから、シベリア上空を飛んでもミサイルで撃ち落とされる心配はない。アンカレッジ経由に比べ、時間をずいぶんと節約できた。さらに、社会主義ならではの低運賃も魅力だった。

とは言うものの、うまい話には何かしら裏がある。成田空港でイリュージン機内に入った途端、びっくり仰天した。なんと、機内の天井から濃霧のごとく、白い煙がもくもく。どうやら、夏の暑いさなか、ドライアイスのサービスらしい。さすがに上空では暑くないだろうが、二酸化炭素中毒にならないものか? 不安が横切中、機内では僕の太ももよりも太

い腕をした女性 CA が、床をギシギシ揺すりながら、飲み物と食事を配ってはテーブルにドーンと置いていった。無愛想この上なく、「カッ〜ワイイ」という表現は、どうやらソ連という国にはないらしい。

さらに驚いたことに、モスクワで乗り換え機を待つ間、丸太のような太い腕をした男性作業員が両手で機内のイスを軽々と運び入っては取り替えている。どうやら、日本からモスクワに行く旅客の多くはスリムなので座席は 3 列で十分だが、ソ連国内では超肥満体のソ連人に対応すべく、2 列座席に取り替えているのだろう。

プラハ空港からは、市内へとタクシーで向かった。開発が進んでいなかった当時、林の中をタクシーが走った。ところが、タクシーが木立の中でいきなり停まった。怪訝に思っていると、運転手がやおら振り向き、「料金を米ドルで払わないか」と相談をもちかけてきたのだ。当時、共産圏では米ドルの価値が高く、運転手が米ドルを欲しがったようだ。何しろ 1 ドルが 2 百数十円の時代。米ドルの価値は高く、チェコ貨幣で支払うより、割安にするとの条件付きだった。が、米ドルで支払うのは違法だとの情報があったので体よく断ると、それまでニコニコしていた運転手は途端に無愛想になった。

そのときのプラハ出張は、カレル大学で開催された国際シンポジウムへの参加が目的だった。外国からの参加者にカレル大学が宿泊用として準備したのは、夏期休暇で学生のいない学生寮。ベッドは狭くて硬いし、朝食は硬いパンと粗末なソーセージ。その上、チッポケなカップにコーヒー豆粉が半分ほど沈殿したトルコ・コーヒー。わずかな上澄みを吸るものの、豆粉が口の中でジャリジャリ。記憶が定かではないが、宿泊料は日本円に換算すると数百円。社会主義国家としては精一杯のオモテナシなのだろうが、ここまでくると…。

真夏で空は快晴なのに、街行く人々の表情は心なしか、暗い。旧ソ連に抑圧された不満と疲弊感にあふれているようだった。

あれから 35 年。あれほど権勢を誇っていたソ連は崩壊し、再び訪れたプラハの街は底抜けに明るかった。ホテルはヤルタ会談に因んだか、その名も「ヤルタ」。学生寮とはまるで異なり、ウェルカム・シャンパンさえ置いている。トルコ・コーヒー責めに閉口した身には、雲泥の差だ。ホテルは、「プラ



ハの春」でソ連の戦車が侵入してきたヴァーツラフ広場に面していた。当時は緊張の極限にあっただろうが、今や広場は活気に満ち、ホテルの窓から下を覗くと、ここは新宿かと錯覚するほど、夜遅くまで行き交う若者であふれかえっていた。

プラハには、世界遺産の名に恥じず、歴史ある建造物が目白押しだ。「百塔の町」とも呼ばれ、ロマネスク、ゴシック、ルネッサンス、バロック、アールヌーヴォ様式などの建物が残っている。「建築物の生きた博覧会」とさえ呼ばれる所以に得心がいく。それだけ異なる様式の建物があれば、統一感のないバラバラな街になりそうなものだが、意外にもしっくりして、違和感がない。中世の街に迷い込んだような錯覚にさえ陥る。

旧市街には、旧市庁舎、ティーン教会、聖ミクラーシュ教会、火薬塔など、存在感の際立つ建物がある(写真12～15)。旧市庁舎には天動説に基づく天文時計があり、毎正時にはキリストの12使徒が鐘の音とともにゆっくり現れる仕掛けだ。最後には鶏が

鳴いてトランペットが吹き鳴らされる。大勢の観光客が集まり、一斉に時計を見上げていた。旧市庁舎の前にある専門店で、繊細なカット細工のボヘミアンガラスのシュガーポットを土産に買った。

市内を流れるヴルタヴァ川(モルドウ川)にはカレル橋がかかっている。14世紀後半から15世紀初頭にかけて建造された美しい石橋で、途絶えることなく観光客が往来している(写真16)。それほど古くに造られた橋が600年ほども現役でいることには、感心するのみ。橋のたもとにある橋塔は石段で登ることができる。バルコニーに上がり、人が写っ



写真12 天文時計



写真14 聖ミクラーシュ教会(バロック様式)



写真15 火薬塔(ゴシック様式)



写真13 ティーン教会(ゴシック様式)



写真16 カレル橋

ていない美しい橋を撮影しようと目論んだが、無駄な抵抗だった。待てど暮らせど、人通りが途切れることはなかった。橋の左右の欄干には 30 体の聖人や英雄の彫像が並び、かのフランシスコ・ザビエルの像まである。

カレル橋を渡り、石畳の坂をゆっくり登ると、小高い丘に立つプラハ城にたどり着く(写真 17)。坂道の途中には土産物や菓子を売る屋台が出ており、覗きながら歩くのも楽しい。小麦粉の生地を巻いて焼いた伝統的な菓子のトゥルデルニークは、シナモンと砂糖が巧妙にマッチし、サクッとした感触がおいしい。食べながら歩くと、プラハ城の正門にたどり着く。門の入り口には直立不動の衛兵が立ち、毎正時に交代式が行われる。バッキンガム宮殿ほどの人気ではないものの、ここにも観光客が押し寄せていた。

城内に入ると、聖ヴィート大聖堂、旧王宮、聖イジー協会などがあり、古くて荘厳な建物に圧倒される。しばらく進むと、黄金小路がある。ここにはおとぎ話に出てくるような小さな建物が並ぶ。昔は召使いなどの住まいだったようで、今では土産物店や武具展示などになっている。小路の中ほどに、青く塗られた家がある。ここをチェコ出身の作家フランツ・カフカが仕事場として使ったそう。

因みに、カフカの作品では「変身」が有名だ。朝目覚めたら、巨大な甲虫になってしまったという話だ。虫から見た人間生活がいかなるものか？僕は大学の教養部時代にドイツ語の教科書で読んだ(読まされた?)が、難解な文章に辟易した苦い思い出がある。

夜はヴルタヴァ川クルーズとしゃれ込んだ。クルーズ船の名は Cecil。言わずと知れた、医学関係者なら誰もが知っている内科学教科書著者の名前と

同じだ。夕闇とともに荘厳な建物に灯がとり、ヴルタヴァ川に反射して素晴らしい光景を醸し出す。これまた 35 年前には想像だにできなかった夜景だ(写真 18)。

船内ではビュッフェ料理が用意され、食事とビールを飲みながら夜景をゆっくり楽しむことができた。下りは下りそのものだったが、上りは川に高低差があり、運河で上流と下流の水面を調整してから船が進んだ。日本ではあまり見かけない仕組みだ。

チェコに来たからには、世界遺産のチェスキー・クルムロフを見ないではおけまい。日本に来る外国人が京都を訪れるのと同じ気持ちだろう。プラハ市内からバスで 3 時間ほどかけて訪れた。13 世紀から建造が始まったというチェスキー・クルムロフ城を中心に、赤い屋根に白い壁の建物がオモチャの町よろしく建て並ぶ(写真 19)。小さな町で、城内と街は 2 時間もあれば十分に楽しめる。

プラハに次ぐチェコ第 2 の都市がブルノだ。閑静な町並みに歴史を感じる(写真 20)。この修道院でせっせとエンドウ豆を交配して観察したのがメンデル(写真 21)。彼の功績は生前には認められず、死後 16 年も経ってから、今や中学生ですら知っている



写真 18 カレル橋夜景



写真 17 プラハ城



写真 19 チェスキー・クルムロフ





写真 20 閑静なブルノ市内

写真 22 ビアホール（プラハ）  
「善良な兵士シュヴェイクの冒険」著者ハシェク行きつけの店

写真 21 メンデル通り（ブルノ）

写真 23 ビアホールで郷土料理と  
ピルスナービールを楽しむ

「メンデルの法則」として再発見された。

さて、チェコと言えばピルスナービール。チェコ国民1人当たりの年間ビール消費量は161.5リットルで、ドイツを凌いで世界一だ。小説「兵士シュヴェイクの冒険」の作者ハシェクが通い詰めたというビアホールのウ・カリハでは人々が集まり、アコーディオンの生演奏に合わせ、ビールを楽しんでいた。チェコ名物料理も味わうことができ、牛肉グヤーシュを楽しめる（写真 22, 23）。グヤーシュはもともとハンガリー料理だが、チェコでも地元料理として定着している。

ところで、カレル大学を訪問した際、解剖学教授が「ビールをご馳走するよ」と言ってきた。ゴツアン気分でもコノコ付いて行ったら、日本的にはツマミが付きものだろうが、本当にビールだけだった!! 嘘偽りではないが…。もっとも、学生同士でグラスを傾けつつ、議論に花を咲かせるカフェだそうで、店内はほぼ学生だった。これでは腹の足しにもならず、洞窟風のレストランに向かった。名物料理



写真 24 洞窟風レストラン（プラハ）

のローストダックとポークがワインを引き立ててくれた（写真 24）。

ブルノでは、ホテルの真ん前の広場で市場が毎日開かれ、農家が朝の5時頃から店を出していた（写真 25）。ハチミツが並んでいたのも、赤ら顔のオジさんに声をかけた。英語が分からないと身振りで応えたオジさんは、やおら息子呼びに走った。息せき切って駆けつけた息子は、ハチミツを採取した植物

の名前を自慢そうに紹介し始めた。もっとも、植物の名前を言われてもちんぷんかんぷんで、息子の勧めに従って2種類のハチミツを購入した。

朝市に並べられていたリングは「Fuji」、カボチャは「Hokaido」(写真26)。あれれ、一字足りないぞ。まっ、イイか。



写真25 マーケット広場(ブルノ)



写真26 朝市(ブルノ)

## 文 献

- 1) 外務省資料  
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/czech/data.html#section1> 最終アクセス2020年12月18日
- 2) OECD データ  
<https://stats.oecd.org/> 最終アクセス2020年12月18日
- 3) チェコの医療事情と病院  
<http://yyfield.blog.fc2.com/blog-entry-326.html> 最終アクセス2020年12月15日
- 4) チェコの教育制度  
[https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/other/\\_icsFiles/afildfile/2019/07/17/1396864\\_021\\_1\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/other/_icsFiles/afildfile/2019/07/17/1396864_021_1_1.pdf) 最終アクセス2020年12月18日
- 5) EURYDICE Czech Republic Overview  
[https://eacea.ec.europa.eu/national-policies/eurydice/content/czech-republic\\_en](https://eacea.ec.europa.eu/national-policies/eurydice/content/czech-republic_en) 最終アクセス2020年12月18日
- 6) Oliver R, Sanz M. The Bologna Process and health science education: times are changing. Med Educ 2007; 41: 309-317.
- 7) Qualifications Frameworks in the EHEA - 2009.  
<http://www.ehea.info/cid102842/qualifications-frameworks-in-the-ehea-2009.html> 最終アクセス2020年12月18日
- 8) World Directory of Medical Schools  
<https://search.wdoms.org/> 最終アクセス2020年12月18日
- 9) カレル大学医学部  
<https://www.sidaiigakubu.com/foreign-university/charles/> 最終アクセス2020年12月18日
- 10) カレル大学カリキュラム  
<https://www.czech-medical.org/school/charles1/curriculum/> 最終アクセス2020年12月18日
- 11) マサリク大学医学部  
<https://www.sidaiigakubu.com/kaigai-igakubu/europe/czech/about/> 最終アクセス2020年12月18日